

元治二年一月九日より元治二年一月十三日まで

P8311214 right

即日御登城有し、□歳太夫来り、例の通り老拝式白□外に神社類焼に付、勸化(*)を請に
より聊(いささか)帰附せし旨、保三来り泊宿

十日午 陰

上野 御成御沙汰止、宅調、市川(中)来り面す(下)、古沢(□)初て来り、面す(凡)

十一日未 陰漸晴

御具足御祝有し、宅調、雑煮糕を設く、藤児を黄窪へ遣すに付、歙児をも同駕にて年賀
として遣し鮮一重、縮めん袖口長、両児へ銀簪一づつ元児へ手遊び 並三婢へ黒ゴロ半衿

前惣一□

小侍へ小菊に手拭を遣す、藤児には既に年玉品を遣せり、婢てつ随従せしむ、袖口を贈らる
歙藤とも泊宿、坂町へ年賀の使いを遣し、鮮一折縮めん、袖口式つ 並婢へ永持婢に同品
■遣す、西尾(錦)、河津、荒木、伊佐へ年賀宮禮の使者を遣す、大塚未亡人年賀に来る

P8311214 left

柑子□のし等を贈らる、屠蘇を勧む、寺山小君□為すら両児を伴い同行来り

シヤンバン一 小瓶菓子折等を贈らる、前同断の役あり(縮めん袖口半衿、其外手遊等遣す)

且為児は泊宿す、坂本へ墓参に行き

飯島(辰)、内山(孝)へ年賀に立ちよる

十二日申 陰夜雨

加藤(計)初て来り面す(下)、出 殿、越前表織田(市)より一書届く返翰也、金港伊藤(岩)、高畑(久)
より年賀状届く、伊豆守殿今以御登城無し、保三来り馬具払□を示さる、藤山へ年

賀の使出す、鮮一折、縮めん袖口、烟具半切等を遣す、至心院殿、百ヶ日志し重贈り来る
人世如夢多少の感慨、榊原(鍊)年賀に来る、保三泊宿す

十三日酉 薄雲

宅調、友輔新年の作を示さる、黄窪へ歙児迎え駕を遣し、且新□並百ヶ日の回向として茶

*「勸化(かんげ)、仏寺等を造営するための寄付集め

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。